

給食だより

令和8年1月

おうちの人といっしょに読もう

佐賀市川副学校給食センター

TEL 0952-45-0374

新しい年を迎えました。年の初めの1月は、お正月に始まり、七草、鏡開き、小正月など、この1年間を健康に暮らせるようにとの願いを込めた行事が行われます。家族や親せきなどと互いの健康を願いながら、行事を楽しみましょう。

また24日から30日までは「全国学校給食週間」です。戦後、国内外の多くの人の優しい気持ちや期待によって再開された学校給食の役割や大切さを考え、より充実するようにとの願いが込められた一週間です。この期間を通して、あらためて食べ物の大切さや作る人の思いを知り、感謝の気持ちをもって食事をするできるようになりたいものです。

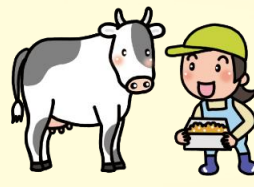


感謝して食べよう

～1月24～30日は「全国学校給食週間」です～

みなさんのもとに給食がとどくまでに、たくさんの方がかわっています

● 田んぼや畑、海や牧場で働く人



こめや野菜を作ったり、
魚をとったり、牛や
豚、にわとりを育てて
くれます。

● 食べ物を運ぶ人



食べ物をとれた場所
からみんなの町へ、
また給食センターか
ら学校まで運んでく
れる運転手さん。

● お店の人



よい食材を選んで
売ったり、注文に応じて
朝、給食センターまで
運んだりしてくれます。

● 給食をつくる人



献立を考える栄養
教諭の先生や給
食をつくる調理員さ
ん。

● 準備をする人



温かいものを温かく、
おいしそうに配膳して
くれる給食当番さ
ん。

食事のあいさつは感謝のことば

私たちは、食べないと生きていくことができません。食事のあいさつは、生きるために食べ物の命をいただくことや、食事を準備して下さった方々の心づかいや苦勞への感謝を伝えることばです。

命にむけて いただきます



山のてっぺんを「頂(いただき)」といいますが、昔、大切なものをもらうとき、一度頭の上に掲げ、かしこまって頂戴したことから生まれた言葉といわれます。さらに食事で動植物の命を「いただいて」いること、食事ができることへの感謝の気持ちも込められています。

人にむけて ごちそうさま



「ちそう(馳走)」とは、「走り回る」という意味です。昔、大切な人をもてなすために遠くまで駆け回り、食べ物を集めてくれた人への感謝を表す言葉です。毎日食事ができるかには、さまざまな人の仕事や協力があります。そのことに感謝してあいさつをしましょう。

料理に込められた 願いを知ろう

おせちのきもち

お正月にはおせち料理を食べましたか。「おせち」とは、もともと季節の変わり目の節日に食べた料理ですが、今ではお正月に食べるお祝いの料理のことをさします。それぞれの料理には、新しい年がよい年となるよう、さまざまな願いがこめられています。

田作り・たたきごぼう



田作りは、昔、いわしを田の肥料にしたことから、たたきごぼうは豊作になると飛んでくる黒い鳥にあやかり、どちらも豊作を願って食べられます。

数の子・さといも・八つ頭



数の子、さといも、八つ頭は、どれも卵やいもの数が多いことから、子孫繁栄を願って食べられます。

黒豆



黒には魔よけの力があるとされ、「まめ(元氣)で暮らせるように」と願って食べられます。

伊達巻き・きんとん



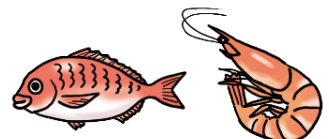
伊達巻きは巻物(書物)に似ているので、知識が増えるように、きんとんはお金持ちになるように願って食べられます。

昆布巻き・くわい・れんこん



昆布巻きは「よろこぶ」、芽が出たくわいは「めでたい」に通じ、れんこんは「先が見通せる」として食べられます。

たい・えび



たいは「めでたい」に通じ、えびは腰が曲がるまで長生きできますようにと願って食べられます。